

第36回児童福祉審議会子ども・子育て分科会議事録

日 時 令和5年10月6日(金) 10:00～11:25

会 場 はぐくみかん5階 会議室3・4

出席委員－岩波啓之、織田俊美、久保山茂樹、小賀坂裕子、新保幸男、竹内英樹、谷英明、富澤真由美、永松範子、星野洋司、松本敬之介、吉田尚子

欠席委員－菊池匡文、木津りか、五本木愛、宮田丈乃、渡邊康乃 (五十音順、敬称略)

事務局－子育て支援課 有川課長、田中課長、篠崎課長補佐、澤村主査、市原主任、市川
こども家庭支援課 山田課長、渡邊係長、矢野主任、古澤主任
児童相談課 深井課長
教育委員会事務局教育総務部教育政策課 長井課長補佐

傍聴者 3名

1 開 会

会議定足数報告

本分科会委員17名中、半数以上となる12名出席のため、児童福祉審議会条例第5条第3項「委員及び臨時委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない」に基づき、本分科会は成立したことを報告。

2 資料確認

事前送付した資料と席上配布した資料について説明。

3 議 事

(1)次期横須賀子ども未来プランの策定に関する調査について

- ・ニーズ調査
- ・子どもの生活に関する実態調査

【審議結果】

(1)次期横須賀子ども未来プランの策定に関する調査について、意見をふまえた最終調整は会長と事務局に一任

【質疑概要】

議事(1)次期横須賀子ども未来プランの策定に関する調査について

－前回会議(8/3)やその後いただいたご意見による調査票等の変更点を説明し、インターネットでの回答イメージを共有するため、モニターでのデモンストレーションを行った。

●ニーズ調査及び子どもの生活等に関する実態調査（以下、実態調査）についての質疑

（新保会長）

資料2（10P）設問番号1とは資料6の間1のことか。

（事務局：こども家庭支援課長）

小学5年生が回答する内容のため、資料8「子どもの生活等に関する実態調査の小学5年生」の間1（1P）のことである。

（谷委員）

席上配布資料「アンケート調査依頼イメージ」中の回答所要時間の項目で、「※入力途中で一時保存も可能です」を「画面入力の途中で一時保存は可能です」と記載した方がよい。インターネット調査票のトップ画面に、一時保存の方法を説明している場所（例：問39番の後）を記載した方がよい。

また、実態調査（小学5年生）のインターネット調査票だと、設問の途中で「ここまでで、全体の1/4を終了しました」と記載されており、とても分かりやすかった。ニーズ調査2件と実態調査（保護者用）も同様の記載を加えた方がいい。

（事務局：子育て支援課主査）

分かりやすいよう、記載したい。トップ画面だけでなく、設問の途中にも、一時保存について紹介するような形にしたい。

（岩波委員）

資料2（11P）に中学2年生調査票の「ルビ」の記載について書かれているが、実際に小学5年生の調査をやってみたところ、小学5年生調査票も「ルビ」が振られていなかった。インターネット調査票では小学5年生も「ルビ」はなしということか。

（事務局：こども家庭支援課長）

インターネット調査票の仕様上の問題もあり全て「ルビ」は振らないが、小学5年生の児童と中学2年生の生徒は紙の調査票も送付するため、紙と見比べて回答してもらえれば何とか読み込めるのではないかと考えている。

（岩波委員）

資料8（2P）問3の選択肢に、放課後児童クラブ（学童クラブ）、放課後子ども教室、青少年の家（みんなの家）があるが、この区別を小学5年生はできるのか。施設の説明が必要ではないか。

（事務局：放課後児童対策担当課長）

小学5年生でも利用者であれば区別がつくと思うが、確かに放課後子ども教室はまだ数が少なく、青少年の家も学校や家の近くにないと、区別がつかないかもしれない。

(岩波委員)

子どもたちの立場から考えれば、青少年の家とは何か、との説明がある方が分かりやすいのでは。

もう1点、インターネット調査票の小学5年生の間19で、「ない」を選択すると問20が省略されるが、最後に「問20を答えていない」とエラー表示となるため、確認していただきたい。

(事務局：こども家庭支援課長)

エラー表示について検証したい。

(岩波委員)

問29、問31、問38の各選択肢が対照的なものになっておらず違和感がある。例えば、問29の場合、「とてもそう思う、そう思う、あまりそう思わない、そう思わない」より「とてもそう思う、少しそう思う、あまりそう思わない、そう思わない」の方が選択肢として選びやすい気がするが、いかがか。

同じように、問32の選択肢は、「2ときどきある」と「3たまにある」の違いが分かりにくい。答えるのが子どもなので、「よくわかる、少しわかる、あまりわからない、全くわからない」の方が答えやすいのではないか。

(事務局：こども家庭支援課長)

選択肢は、前回実施との経年比較のため、基本的に同じとしているが、ご意見のあった設問については、子どもがわかりやすいよう、少し変更したい。

(谷委員)

資料4(5P)問18の家庭状況について、一番多いと思われる「両親のいる家庭」の選択肢がなく、「1母子家庭、2父子家庭、3いずれでもない」だと、両親のいる家庭がどれに該当するか迷うかもしれない。それよりも「1両親がいる家庭、2母子家庭、3父子家庭、4その他」の方がよいのでは。

また、実態調査では、資料7(3P)の問9で「※お子さんにお母さまがいらっしゃらない場合は問10へお進み下さい」と記載があり、母子家庭、父子家庭の場合は設問を読み飛ばすよう促す記載となっている。どちらか一方に統一したほうがよいのではないか。

(事務局：子育て支援課主査)

実態調査の場合、この後に続く母親、父親に尋ねる設問が2問と少なく、読み飛ばしても次の設問が見つけやすい。ただ、ニーズ調査の場合は、読み飛ばすには設問数が多すぎるため、問18の回答結果により、その後不要となる設問は、非表示とする設定としたい。

選択肢は、選びやすいようにご意見のとおり「1両親のいる家庭」を追加したい。

(谷委員)

資料5(16P)問25-1-1「はぐくみかん(子育ての相談窓口)」と記載されているが、はぐくみかんの後に「の」を付け加えたほうがよいのではないか(「はぐくみかんの子育て支援窓口」)。この書き方では、はぐくみかん内にあるすべての窓口が「子育ての相談窓口」と誤解してしまう。

また、問25-3-1「病児・病後児保育センター」や、問25-5-1「ファミリー・サポート・センター」も、知らない人は、回答がすべて「いいえ」になってしまう。利用したことがない人にどんな施設なのか説

明して分かってもらった方がよい。問 18（8P）放課後児童クラブの説明と同様に所在地や内容を記載したほうが、今後利用しようと思う人も出てくるのではないか。

（事務局：子育て支援課主査）

はぐくみかんについての設問の書き方は、工夫したい。また、「病児・病後児保育センター」や「ファミリー・サポート・センター」についても、今まで知らなかった方にも、知っていただけるよう、施設説明の文言を加えたい。

（織田委員）

ちょうど資料 5（8P）問 18 に放課後児童クラブ（学童クラブ）等の説明が書かれている。同じように記載すればよいのではないか。

（久保山委員）

調査票の配布方法について、小学 5 年生と中学 2 年生の保護者には郵送だが、小学 5 年生と中学 2 年生の子ども達にはどう配布するのか。同じ封筒に保護者と子どもの調査票を入れて送付するのか、それとも別々の封筒で送付するのか、また返送も同じ返信用封筒なのか別々の返信用封筒があるのか等教えていただきたい。

（事務局：こども家庭支援課長）

保護者と児童生徒のお宅には同じ 1 つの封筒に、①保護者と児童・生徒用兼用の依頼文、②児童・生徒用の調査票、③児童・生徒用の返信用封筒を同封します。

なお、保護者はインターネット回答であるため、調査票は同封いたしません。

（久保山委員）

質問が 3 点。1 つ目、保護者の回答と児童・生徒の回答を番号で紐づけするとのことだが、どちらか一方が回答しなかった場合、もう一方の回答したデータはどのように扱われるのか。二つの回答が揃わないと、データとして有効とならないのか。

（事務局：こども家庭支援課長）

保護者の調査票には貧困の度合い、収入の状況の項目があるため、その子どもはどのような回答をしているのかわかるように紐づけしているが、回答が一方からしかなかったとしても、有効データとして扱う形となる。

（久保山委員）

2 つ目、机上配布資料の 2 枚目、実態調査の依頼文について、弱視の方や視覚障害のある方は、独特なフォントではなく、1 枚目のようにゴシック体で強調するほうがよい。ちなみに、弱視の方や視覚障害のある方にこのアンケートが届いた場合の対応はどうか。点字版の調査票は用意するのか。

（事務局：子育て支援課主査）

点字版は予定していなかった。基本的に、個別対応となる。

〔事務局補足〕

審議会後に検討した結果、弱視の方や視覚障害のある方が二次元コードを読み込めるよう、依頼文に目印となる「切り欠け」を設けることとしました。

(久保山委員)

3つ目、これは学校の先生である委員の方にお伺いしたい。資料8(10P)問31 児童に楽しみな教科を尋ねる設問で、教科の選択肢に「総合的な学習の時間」や「特別活動」、「道徳」があってもよいのではないか。

(富澤委員)

選択肢に、入れていただいたほうがよいと思う。

(事務局：こども家庭支援課長)

検討したい。

●ニーズ調査における調査対象者数の見直しについて

事務局より、アンケート調査を今回初めて郵送配布インターネット回答で実施するため、前回調査より回答率が低い懸念があることから、当初事務局から示したニーズ調査配布人数6,000人(就学前児童がいる世帯の保護者3,000人、小学生のいる世帯の保護者3,000人)から増やすことを検討していると説明。対象者数をどの程度増やすかについては、分科会長と事務局に一任となった。

〔事務局補足〕

審議会後に検討した結果、対象者数を就学前児童がいる世帯の保護者7,000人、小学生のいる世帯の保護者7,000人に増やすこととしました。

(岩波委員)

対象者数を増やすという方法もあるが、例えば、二次元コードの入ったお知らせを、幼稚園や保育園、小学校へ配ればお金もかからないし、難しくないのではないか。あとは、広報よこすかのような広報誌にも二次元コードを添付した記事を掲載するのもよい。調査票の二次元コードをいろいろなところに出し、回答してもらえばよいのではないか。

(事務局：子育て支援課長)

それも1つの方法かと思うが、例えば広報誌に掲載し広く周知した場合、児童がいない家庭(調査対象外)の方も回答してしまう可能性や、調査票の問い合わせ・集計も限られた人数で行うため、必要な回答数とのバランスを考えて対象者数は調整していきたい。

なお、インターネット回答なので、日々回収率を確認できることから、回収率が低い状況が見られれば、他の方法も検討したいと思う。

(久保山委員)

依頼文について、ポンチ絵などを載せてもう少し目的意識が伝わるものだとよいと思う。そもそも「横須賀子ども未来プラン」を知らない人が多いのではないか。児童福祉審議会というものがあって、この調査結果によって、次の計画がつけられるという、目的や繋がりが、ポンチ絵などで一目でわかれば、回収率につながるのではないか。

(事務局：子育て支援課長)

確かに、自分の回答が今後どのように繋がっていくのかがわかると、回答所要時間が30分以上かかってもやろうと思ってくれる人がいるかもしれない。前回の回収率が60%だったことから横須賀市内子育て世代は、子育てに関心がある人が多いことがわかるので、そういう人達によく伝わるようなものにしたいと思う。

*この議事録は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。

以 上